

西部緑地公園再整備構想案 「新産業展示館」

概要版

1. コンセプト

多彩な催しで賑わい・交流の生まれる展示場

多彩な催しを通じて、県内外の多様な「ヒト」、最新の「モノ」や「情報」が集まり、そこから新たな賑わい・交流の生まれる拠点を目指します。

<コンセプトを実現する3つの空間>

■ 展示機能等を強化した使い勝手の良い空間

→ 様々な規模や用途の展示会、大規模なコンベンション、各種イベントに対応（現4号館との一体的な利用も想定）

■ 公園内の施設としての特色を活かして賑わい・交流を創出する空間

→ 緑地空間とアクセスしやすい動線、公園利用者が気軽に立ち寄れる機能

■ 時代の要請に対応した利便性の高い空間

→ デジタル化、環境配慮、ユニバーサルデザイン、バリアフリー、防災拠点機能

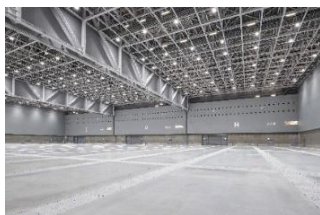
2. 整備の方向性 その1

■ 展示機能等を強化した使い勝手の良い空間

① 展示面積を拡大（現1～3号館：1.1万㎡ → 1.3万㎡（現4号館と合わせて2万㎡））

② 2つの展示ホール、間仕切で分割利用可

→ 様々な規模や用途の催事に対応、複数催事の同時開催も可能にします。



大型で分割可能な展示ホール
(Gメッセ群馬)



間仕切で分割可能な仕様
(東京ビッグサイト)

③ 使い勝手や機能性を重視した空間

→ 商談室の充実、十分な天井高・床耐荷重、最新の照明・空調設備、気軽に利用できるワークスペースの整備 など



商談室
(幕張メッセ)



大型展示物にも対応できる天井高
(幕張メッセ)

④ 円滑な搬入動線を確保

→ 大型の搬入口の整備、円滑な搬入車両路、十分な駐車・待機スペースの確保 など



大型の搬入口
(愛知県国際展示場)



大型車両が直接乗入して会場設営
(インテックス大阪)

⑤ 必要十分な大・中・小の会議室を整備

→ 展示会に併せたセミナーや、大規模なコンベンション、小規模な展示会（絵画や骨董など）の利用も可能にします。



大会議室
(愛知県国際展示場)



会議室を利用した小規模な展示会
(愛知県国際展示場)

■ 公園内の施設としての特色を活かして賑わい・交流を創出する空間

① ゆとりあるホワイエ空間を整備

→ 来場者・公園利用者等の休憩・くつろぎスペースのほか、イベント時の滞留空間を確保します。



ホワイエ空間
(ポートメッセなごや)



休憩・くつろぎスペース
(Gメッセ群馬)

② 緑地空間に繋がる大屋根スペースを整備

→ 緑地空間との一体的な利活用が可能になり、賑わいの創出にも繋がります。



大屋根スペース
(東京たま未来メッセ)



＜主な利用想定＞
◇ 休憩・くつろぎスペース
◇ イベントスペース
◇ キッチンカーの出店スペース

■ 時代の要請に対応した利便性の高い空間

① 最新のデジタル機器、環境に配慮した設備、ユニバーサルデザイン、バリアフリーを導入

③ 防災拠点機能を確保

→ 令和6年能登半島地震の際に、支援物資の輸送拠点等に活用された経験を踏まえ、防災拠点として必要な機能や相応しい安全性を確保します。

② 近接した駐車場、現4号館との動線を確保

→ 新展示館にアクセスしやすい駐車場、現4号館との間の円滑な来場者動線、来場者が雨や雪に濡れない対策も検討します。



支援物資の輸送拠点
(現4号館)



避難者の一時的な避難所
(現2号館)

3. 施設計画 その1

※現時点での想定（目安）であり、今後、変更の可能性がある

■ 施設規模

展示ホール	1.3万㎡ （現4号館と合わせて 2万㎡ ）
共用・交流スペース	ホワイエ、会議室、商談室など十分な広さを確保

■ 配置計画イメージ

ポイント 1

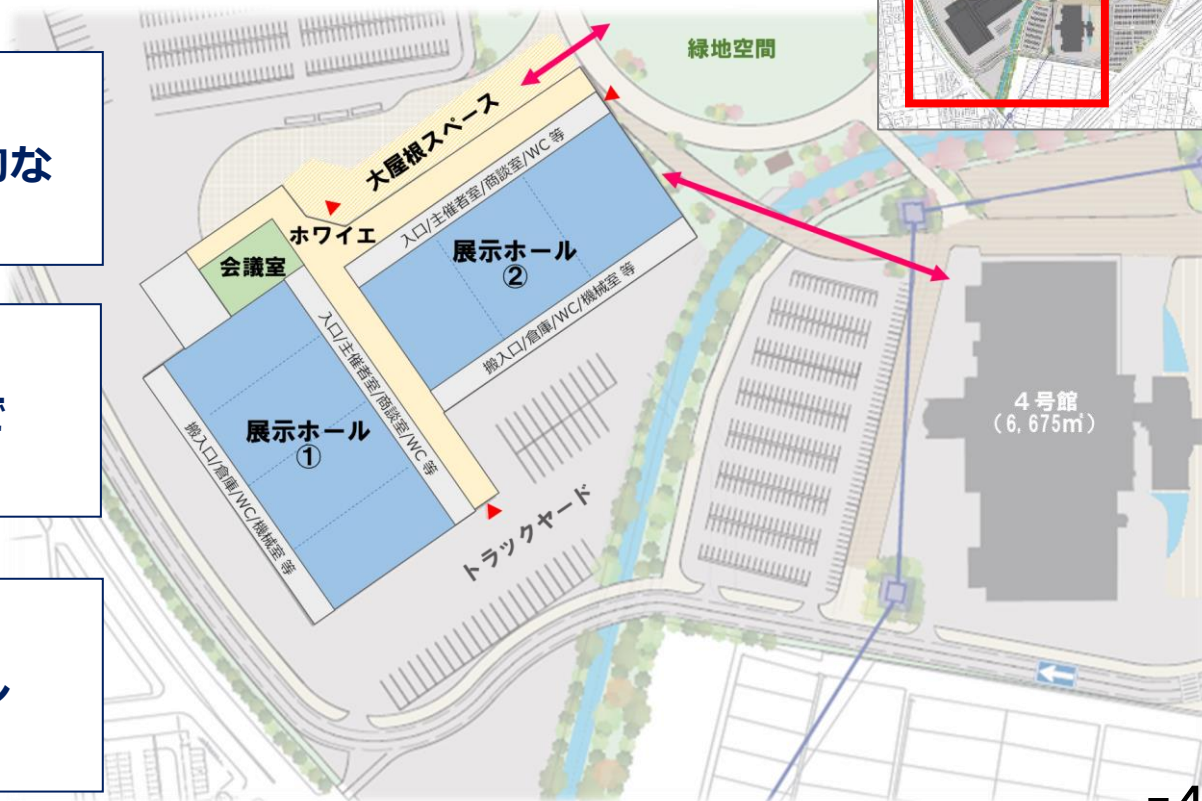
現4号館や緑地空間との一体的な
利活用を想定した配置

ポイント 2

2つの展示ホールをホワイエで
繋ぐ形で配置

ポイント 3

主催者室や商談室は展示ホール
に近接する形で配置



■ 主な諸室の構成

諸室名		利用用途・仕様等
展示ホール		2ホールを設け、使い勝手や機能性を重視した空間とし、多様な催事に対応
共用・交流スペース	ホワイエ	来場者等の休憩・くつろぎスペース、イベント時の滞留空間として、必要十分な広さ・高さを確保（自動販売機、コインロッカーなどサービススペース含む）
	会議室	大・中・小の会議室を設け、展示会に併せたセミナーや商談、全国大会等のコンベンション、小規模な展示会等に利用
	控室	展示ホールに隣接する形で設置し、主催者用、出展者用、商談用等を適宜設ける
	トイレ	施設内に分散配置し、必要数を確保
	備品倉庫	展示ホールに隣接する形で設置し、使いやすさに配慮
屋外スペース		緑地空間に繋がる大屋根スペースを設け、緑地空間との一体的な利活用を可能にする
全館		ユニバーサルデザイン、バリアフリー、最新のデジタル技術、ZEB Ready（省エネ設備等の導入により建築物の年間のエネルギー消費を50%以上削減）等を導入 防災拠点として必要な機能や相応しい安全性を確保

■ 搬入・来場者動線イメージ

- ◇ **搬入動線**：円滑な搬入動線、十分な待機・転回スペースを確保
- ◇ **来場者動線**：駐車場や現4号館、緑地空間とのアクセスを確保

